

17. 6L6 / 807 のオリジナル

前述の通り、6L6 / 807 は世界的規模でバージョンが多数 起こされ発展し続けてきましたが、改めてその全容を見ますと、オリジナルのものが最も凝った構造・外観を持ち、機能美も魅力的ですので、敢えてオリジナルに拘って調べ、写真を撮ってみましたのでお目に掛けます。

(1) 6L6 のオリジナル :

6L6 のオリジナルが元箱付きで残っている例は余りありません。以前 JARL(日本アマチュア無線連盟)の展示室にありましたが、現在では調布の電気通信大学に移管されて学内にある歴史資料館に保管・展示(見学は要予約)されています。

そこで電気通信大を訪問して写真を撮らせて頂きました。元箱に RCA のロゴと共に **Cunningham** のロゴもあって仲々のものです。(Photo-1)

(2) 807 のオリジナル :

807 も現在元箱付きで残っているオリジナルは大変少なくなりました。その一例をお目に掛けます。(Photo-2)



6L6 のオリジナル (Photo-1)



807 のオリジナル (Photo-2)

(3) トリビアな話ですが、オリジナルの 807 にはアマチュア仲間で「舟」と呼ばれ、電極の下側のマイカとステムの間に $8 \times 23\text{mm}$ ほどの小さな電極があります。まさに「舟」と呼ばれるに相応しい形状で、二本のリブの入った一寸凝った構造です。なお、この「舟」はカソードに接続されています。

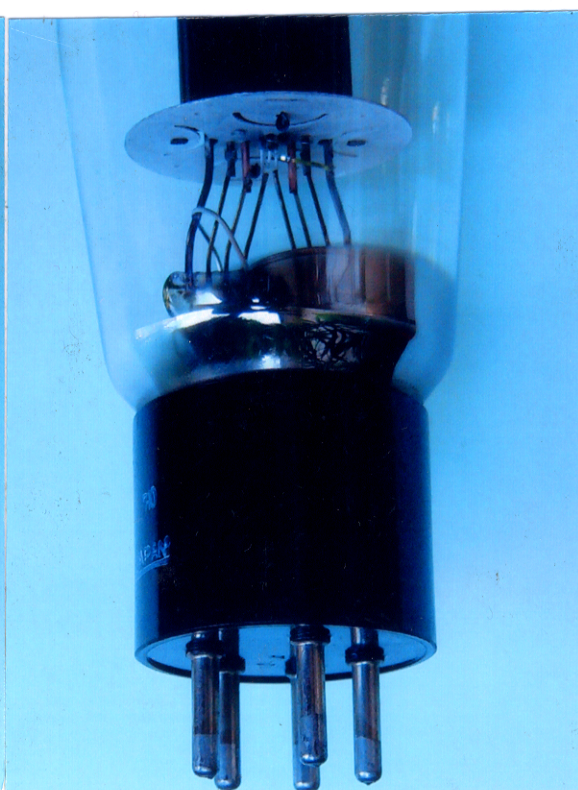
(Photo-3 : 赤→)

その意図は C_{pg} の減少にあるようですが、期待した程の効果が得られなかったと見えて「舟」のない 807 及びそのバージョンも少なくありません。特にテレビの水平発振用の品種 (6BG6 等) には敢えてその必要もないので、この「舟」はありません。(Photo-4)

話が少々脇道に逸れて、更に細かい話になりますが、オリジナルの 807 にはヒーターのリード線はそれぞれプレートの両脇に立った柱に接続され、しかも鉤状のリード線を使って、何故か下のマイカの内部を通してあった事をご記憶の方は少なくなって居られるのではないのでしょうか。



「舟」のある例 (Photo-3)



「舟」のない例 (Photo-4)